

社会教育クローズアップ

「障がい者の生涯学習支援体制構築モデル事業」を実施しました

〈生涯にわたる学習活動の推進に向けた多様な学習機会の提供〉に向けて

本号では、令和6年度文部科学省委託事業「学校卒業後における障害者の学びの支援推進事業」（道教委事業名「障がい者の生涯学習支援体制構築モデル事業」）で実施した、「スタートアップ支援学習会」と「多様な主体による学習プログラム構築事業」の様子を御紹介します。

「スタートアップ支援学習会」は、昨年12月19日にオンラインで、「多様な主体による学習プログラム構築事業」は、「ほん×工作」と題し、1月25日に帯広図書館で実施しました。2つの事業から得られた成果や見えた課題を以下に示します。

令和6年12月19日 オンライン実施 「スタートアップ支援学習会」～障がいのある方への図書館サービスのあり方～

北海道立図書館総務企画部企画支援課長西岡氏を講師とし、上記テーマで講義を行いました。管内の図書館関係者11名がオンラインで参加。公立図書館のはたらき、図書館における「障がい」や「障がい者サービス」のあり方、サービスの具体例や道内図書館の取組を学ぶ機会となりました。また、できることから始める取組例として、「図書館利用に障害のある人々へのサービス（障害者サービス）評価シート 公共図書館編」の紹介がありました。

参加者からは、「自館の取組内容について改めて考える機会となった」、「新たにサービスを考えるのではなく、今あるものをどう周知するかが大切だと感じた」、「道内の様々な取組を知り、今後に向けて意欲が高まった」等の声があった一方で、「講義の内容を元に、学校関係者や生涯学習関係者とも交流したかった」と参加者に偏りがあったことへ課題も挙げられました。

図書館における「障害者サービス」 対象

図書館利用の障害とは何か

- 「障害」とは、誰もが利用できるようになっていない「図書館側の障害」
- 「障害は、障害者にあるのではなく、図書館のサービスにある」

「りんごの棚」

- コピー・サルデサイン絵本
 - ・点字絵本
 - ・凸凹絵本
 - ・手話付き絵本
- L1ブック

- マルチメディア DAISY (デイジー)



参加者に配布された資料の一部

令和7年1月25日 帯広市図書館 多目的視聴覚室 「多様な主体による学習プログラム構築事業」について～「ほん×工作」～



当日の様子



バリアフリー図書の展示コーナー

一般社団法人青鳥舎代表小川氏を講師に、「本と仲間のいる暮らし」と題した講演と、参加者の交流を目的とした「缶バッジづくり」を行いました。当日受付を含め、約20名が参加。冒頭では、社会教育指導班より、「UDトーク」の紹介、バリアフリー図書の説明を行いました。小川氏による講演では、自身が運営するブックカフェや福祉事業に対する想いが語られた他、絵本作家でもある同氏が制作した絵本の読み聞かせ、制作にまつわるエピソード等が語られ、参加者が本や他者との関わりについて考えるきっかけとなりました。

事業の企画・運営にあたっては、スタートアップ学習会での学びの他、帯広養護学校の二階堂校長をはじめ、有識者の意見を取り入れ、障がいのある方だけでなく、すべての人が参加しやすい事業となるよう工夫しました。当日は、事前申込のない参加者も多数訪れ、普段目にする事のないバリアフリー図書を手に取る等、知見を広げる様子がありました。

出前講座「更別村末広学級 生涯学習講座」に行ってきました

〈生涯にわたる学習活動の推進に向けた多様な学習機会の提供〉に向けて

2月19日(水)、更別村「末広学級」の生涯学習講座において、「ウェルビーイングと生涯学習」と題してアクティビティを交えた講義を行いました。

更別村では、目指す村民像を「更別村の大地をしっかりとふみしめ、生き生きと学び続け、豊かなあすの郷土をつくる人」として、生涯学習の理念を重視しています。主に高齢者の方の学びに寄与する「末広学級」の事業では、年間を通じて、パークゴルフや健康体操等のスポーツ講座、合唱会やマリンコンサート等の音楽講座、1泊2日の修学旅行等の多彩な学習活動が行われています。

第4期教育振興基本計画で示されているように、「日本社会に根差したウェルビーイングの向上」の実現のため、生涯学習を通じた自己実現、地域や社会への貢献等の重要性が高まっています。末広学級への参加をとおして生涯学習を実践する方々の声を御紹介します。

令和7年2月19日 更別村社会福祉センター 大ホール 更別村 末広学級「生涯学習講座 ウェルビーイングと生涯学習～末広学級の学び～

当日の様子 約30名の参加がありました



参加者は約30名と、賑やかな雰囲気が始まりました。ラジオ体操第一で身体を動かした後、上記テーマに沿って講義がスタート。「ウェルビーイング」という言葉を知っていた方がいない、という状況でしたが、「一時的、限定的な幸せ」ではなく、「身体的、精神的、社会的に幸せな状態が継続してあること」、という言葉の意味を学んでいました。その後、一年の活動を、写真を使ったカルタで振り返りました。当時の楽しかったことを語り合い、笑顔が溢れていました。最後に末広学級担当者から、活動に参加する意義についてお話があり、この一年の振り返りを記入し、講座は終了しました。

(参加者アンケートより 「末広学級で学んだこと、生涯学習活動への思い、その他」)

この集いで若き日の思い出に花が咲いて、楽しみました。今までの足跡を思い出し、後生に残したい。

末広学級で年を取ってからの学習、振り返れば楽しい限りで、友達と会って話ができて、人生の幸せです。

多くの活動に参加して、一人ではできないこと、多くの人達と協力したり、楽しんだりすることは大切です。

末広学級に参加することは人生の楽しみ、仲間同士が一緒に行くことは、健康と気持ちを豊かにする。一日を楽しく過ごす、誠に良いと思います。

家に閉じこもって外に出ず、更別の人たちの顔を見知らずに終わるのもさびしいと思い参加しました。皆やさしく、気さくでそれぞれの行事でやればなんとかなるな、と思い楽しい一日を過ごしています。

毎月2回の学習では、色々楽しいこと、新しい発見などがたくさんあります。お友達と話し、笑い合うと心が晴れ晴れ、また頑張ろうと思います。これからも元気で参加したいと思います。

アンケートからは、生涯学習活動を通じた社会参加、つながりの大切さ、そして、参加者の皆さんのウェルビーイングが感じられました。

十勝教育局社会教育指導班では、十勝管内の教育推進のため、各団体等の依頼に基づき、各種「出前講座」を実施しています。令和6年度は、社会教育委員向けの研修会講師、学校運営協議会やコミュニティ・スクール関連の情報提供等、計15回の説明・情報提供・講座を行いました。その他、研修会や講座に適した講師の紹介をすることもできます。お申し込みや詳細は、十勝教育局のホームページ(右記二次元コードより)を御覧いただくか、下記お問い合わせ先まで御連絡ください。



【発行・お問合せ先】
北海道教育庁十勝教育局

北海道教育庁十勝教育局教育支援課社会教育指導班(皆川・福原)
住所: 〒080-8588 帯広市東3条南3丁目
電話: (0155) 26-9243 (直通) 平日 8:45~17:30
E-mail: fukuhara.natsumi@pref.hokkaido.lg.jp